



みなさんが「盲腸」と呼んでいるのは、正式には「急性虫垂炎」といいます。盲腸は子どもからお年寄りまで、だれでもかかるありふれた病気です。とはいっても、診断も治療もやつかいなことが少なくありません。子どもの場合は進展が速く、あつという間に腹膜炎になってしまうこともあります。逆にお年寄りでは症状が軽く、単なる腹痛と誤っていたら、盲腸が悪化していったということもあります。また、手術をしたら大腸がんだつたということや、女性では卵巣や子宮疾患だったということがあります。ありふれた病気でありながら診断は容易ではありません。外科医の間では「たかが虫垂炎、されど虫垂炎」

急性虫垂炎のお話

蒲郡市民病院・外科第3部長 ◆ 川瀬義久



とよく言われます。

軽症であれば、手術をして翌日にでも退院できますが、腹膜炎になっていた場合は数週間入院することもあります。しかし、強力な抗生物質のおかげで、手術をしないで済む場合も多いのです。最近では腹腔鏡(内視鏡)を使った新しい手術方法で行うと、腹膜炎でも傷が小さくできたり、虫垂炎以外の重要な病気がみつかったり、メリツトの大きいことがわかってきます。蒲郡市民病院は、早くからこの方法を導入し、積極的に行っていきます。

比較的よく知られた病気なので、虫垂炎かな?と思っただけで早目に近所の医院、病院へかかってください。虫垂炎に限らず、どんな病気でも早期発見早期治療が大切です。



介護保険制度とは

急速な高齢化の進展、介護の長期化、核家族化などから、家族だけで介護をすることが難しくなっています。そこで、介護を社会全体で支える「介護保険制度」が生まれました。

介護保険は、40歳以上の人がすべてが加入し、保険料と公費を財源として、介護や支援が必要となった方に介護サービスを提供するしくみになっています。

介護サービスを利用するには、要介護認定が必要です。介護サービスを利用したい方は、長寿課または居宅介護支援事業所までご相談ください。

次回は、介護保険料についてお知らせします。

問合先 長寿課 ☎66・1176

介護保険を知ろう①

介護保険制度のしくみ

